

旧七日町庁舎

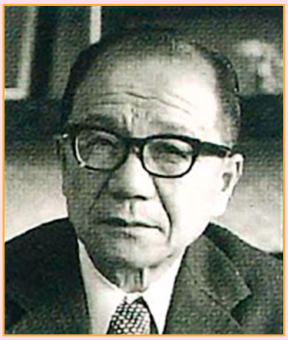
旧北町庁舎

現千手寺町庁舎

第２章　あゆみ

歴代管理者


森谷　菊治郎


三上　馨一


大衡　照夫


千坂　侃雄


中川　俊一


佐々木　謙次


伊藤　康志

歴　代	氏　　名	在　　職　　期　　間	首　　長　　歴
初　代	森谷　菊治郎	昭和46年８月２日　～　昭和47年３月22日	６～７代　古川市長
第２代	三上　馨一	昭和47年３月23日　～　昭和51年３月22日	８代　古川市長
第３代	大衡　照夫	昭和51年３月23日　～　昭和63年３月22日	９～11代　古川市長
第４代	千坂　侃雄	昭和63年３月23日　～　平成４年３月22日	12代　古川市長
第５代	中川　俊一	平成４年３月23日　～　平成12年３月22日	13～14代　古川市長
第６代	佐々木　謙次	平成12年３月24日　～　平成18年３月30日	15～17代　古川市長
第７代	伊藤　康志	平成18年５月13日　～　現在	初代～　大崎市長

歴代組合議会議長

歴代	氏名	就任期間
初代	佐々木　一	昭和46年8月2日 ～ 昭和50年4月30日
第2代	大衡　照夫	昭和50年5月14日 ～ 昭和51年3月3日
第3代	中川　俊一	昭和51年3月25日 ～ 昭和53年12月22日
第4代	小玉　松雄	昭和53年12月23日 ～ 昭和54年4月30日
第5代	渡辺　勝利	昭和54年5月16日 ～ 昭和58年4月30日
第6代	佐々木　一	昭和58年5月31日 ～ 昭和60年5月21日
第7代	中川　俊一	昭和60年7月13日 ～ 昭和62年4月30日
第8代	佐藤　達雄	昭和62年5月25日 ～ 平成元年5月22日
第9代	佐藤　達雄	平成元年10月25日 ～ 平成3年4月30日
第10代	佐藤　長生	平成3年5月29日 ～ 平成5年5月14日
第11代	青沼　常雄	平成5年6月1日 ～ 平成7年4月30日
第12代	佐々木　謙次	平成7年6月5日 ～ 平成9年5月21日
第13代	今野　宗禅	平成9年5月30日 ～ 平成11年4月30日
第14代	佐藤　勝	平成11年5月28日 ～ 平成13年5月17日
第15代	門脇　庄平	平成13年7月11日 ～ 平成14年9月13日
第16代	青沼　智雄	平成14年10月21日 ～ 平成15年4月30日
第17代	佐藤　清隆	平成15年6月11日 ～ 平成17年5月19日
第18代	青沼　智雄	平成17年6月6日 ～ 平成18年3月30日
第19代	遠藤　悟	平成18年7月28日 ～ 平成20年5月21日
第20代	青沼　智雄	平成20年6月3日 ～ 平成22年4月29日
第21代	三神　祐司	平成22年6月3日 ～ 平成24年5月15日
第22代	栗田　彰	平成24年6月1日 ～ 平成26年4月29日
第23代	佐藤　清隆	平成26年5月23日 ～ 平成28年5月18日
第24代	門間　忠	平成28年6月3日 ～ 平成30年4月29日
第25代	佐藤　和好	平成30年5月25日 ～ 令和2年5月13日
第26代	相澤　孝弘	令和2年6月5日 ～ 現在

歴代助役

歴　代	氏　名	在職期間
初　代	内田綱雄	昭和55年4月1日 ～ 昭和63年3月31日
第2代	青沼宏明	平成5年4月1日 ～ 平成11年2月13日
第3代	千葉賢	平成11年4月1日 ～ 平成18年11月6日

※ 平成18年11月7日　助役制から副管理者制となる。

歴代常勤副管理者

歴　代	氏　名	在職期間
初　代	大場敬嗣	平成18年11月7日 ～ 平成30年11月6日
第2代	金森正彦	平成30年11月7日 ～ 現在



大場　敬嗣



金森　正彦

歴代教育長

歴代	氏名	就任期間
初代	落合　衛	昭和48年4月1日 ～ 昭和51年9月30日
第2代	千田　清志	昭和51年10月14日 ～ 昭和63年9月30日
第3代	伊東　隆	昭和63年11月1日 ～ 平成4年9月30日
第4代	伊勢　行雄	平成4年10月9日 ～ 平成12年9月30日
第5代	冨澤　義雄	平成12年11月1日 ～ 平成18年3月31日
第6代	伊東　敬一郎	平成18年6月22日 ～ 平成22年6月21日
第7代	矢内　諭	平成22年7月7日 ～ 平成26年6月30日
第8代	青沼　拓夫	平成26年7月1日 ～ 平成30年7月1日
第9代	熊野　充利	平成30年7月9日 ～ 現在



熊野　充利

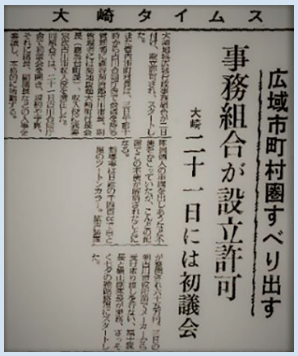
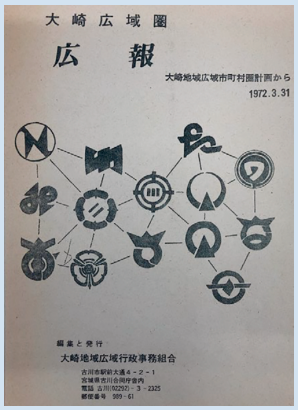
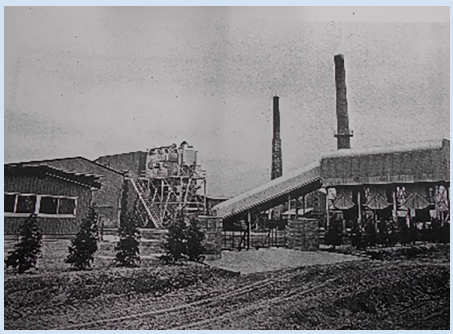
歴代代表監査委員

歴代	氏名	就任期間
初代	橋本　正敏	平成18年8月1日 ～ 平成22年7月31日
第2代	橋本　正敏	平成22年8月1日 ～ 平成26年7月31日
第3代	柴原　一雄	平成26年8月1日 ～ 平成31年1月31日
第4代	宮崎　正典	平成31月3月22日 ～ 令和2年5月31日
第5代	佐々木　富夫	令和2年6月5日 ～ 現在



佐々木　富夫

年表（50年の軌跡）　昭和46年 ～ 令和3年

昭和46年	8月2日	大崎地域広域行政事務組合設立  大崎タイムス 広域市町村圏すべり出す 事務組合が設立許可 大崎二十一日には初議会
昭和47年	3月31日	「大崎地域広域市町村圏計画」策定公表
	3月31日	広報誌第1号発行  大崎広域圏 広報 大崎地域広域市町村圏計画から 1972.3.31 編集と発行 大崎地域広域行政事務組合
昭和48年	4月1日	大崎地区伝染病院組合を大崎地域広域行政事務組合に統合
		大崎地区視聴覚教育協議会、遠田地区視聴覚教育協議会を大崎地域広域行政事務組合に統合し、教育委員会を設置、視聴覚教材センター開設
		大崎地区消防事務組合を大崎地域広域行政事務組合に統合し、消防本部、古川消防署、鳴子消防署、涌谷消防署、中新田消防署、鹿島台分署、岩出山分署、小牛田分署、田尻出張所、小野田出張所、荒谷派出所を開設
	7月1日	大崎地域広域行政事務組合粗大ごみ処理場供用開始 
昭和49年	3月20日	古川消防署三本木派出所、中新田消防署宮崎派出所開設
昭和50年	3月20日	古川消防署松山派出所、涌谷消防署南郷派出所開設
昭和51年	2月29日	中新田消防署色麻派出所開設
	3月31日	「広域市町村圏振興整備構想研究調査報告書」策定公表
	6月1日	消防本部特別救助隊発足（隊員7名）
	12月9日	東北自動車道（古川IC～大和IC間上り線）救急業務開始
昭和52年	12月14日	東北自動車道（古川IC～築館IC間下り線）救急業務開始

昭和53年	4月14日	大崎広域ほなみ園開園



	6月12日	宮城県沖地震 （マグニチュード7.4（Mw 7.5）） 余震26回も続く





昭和54年	5月30日	大崎地域広域行政事務組合消防庁舎新築完成（消防本部・古川消防署同年7月17日移転、事務局は合同庁舎より同年7月23日移転、視聴覚教材センターは古川市中央公民館より昭和55年3月28日移転）

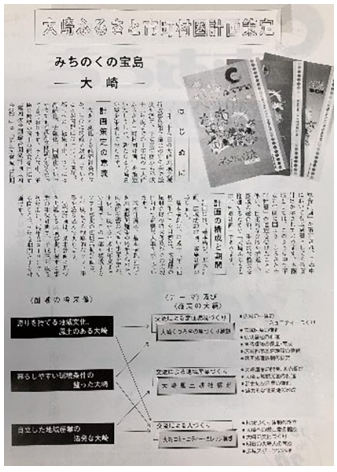


記事：大崎タイムス

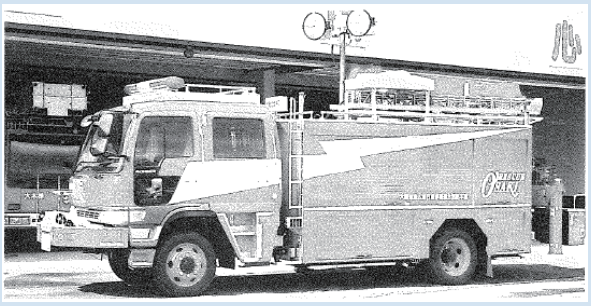
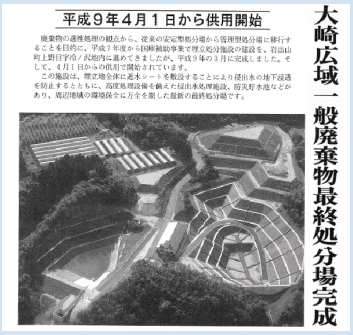
	7月20日	消防本部消防音楽隊発足（隊員27名）



	9月6日	国土省から大崎・栗原地方モデル定住圏の圏域に選定される
昭和55年	3月31日	大崎・栗原地方モデル定住圏計画策定
	4月1日	副管理者制を廃し、常勤の助役制を設置
昭和56年	10月7日	設立10周年記念式典

昭和57年	２月８日	ホテルニュージャパン火災【東京都】
昭和60年	６月１日	消防119番集中管理運用開始 
昭和61年	８月５日	台風10号被害（鹿島台町） 
平成元年	７月１日	自治省からふるさと市町村圏に選定される
平成3年	３月10日	鳴子消防署新庁舎開設
	３月31日	「大崎ふるさと市町村圏計画」策定公表 
	８月２日	設立20周年記念式典  記事：大崎タイムス

平成4年	２月22日	東北自動車道多重衝突事故 （古川市塚目字新田地内　67台）  記事：大崎タイムス
平成5年	８月１日	大崎広域リサイクルセンター供用開始 
	11月22日	大崎で初めて救急救命士を常置（古川消防署） 
	12月８日	古川消防署に35m級はしご付消防ポンプ車配置 
	12月22日	古川消防署に高規格救急車配置
平成6年	９月13日	宮城県知事から大崎地方拠点都市地域に指定される

平成7年	1月17日	阪神淡路大震災【兵庫県】
	3月20日	地下鉄サリン事件【東京都】
	3月28日	大崎地方拠点都市地域基本計画の承認
	9月5日	緊急消防援助隊編成に救助隊1隊、消火部隊2隊を登録
平成8年	3月22日	古川消防署の救助工作車（Ⅱ型）をⅢ型に更新
		
	8月10日	大崎ふるさと市町村圏計画を推進するため「大崎まちづくり協議会」を発足
平成9年	2月18日	中新田消防署に高規格救急車配置
	3月31日	大崎地方拠点都市地域建設省所管事業アクションプログラム策定
	4月1日	大崎広域一般廃棄物最終処分場供用開始
		
平成10年	4月20日	きのこ工場工事現場火災（古川市上中目）
	8月8日	大崎生涯学習センター（パレットおおさき）開館 （視聴覚教材センターを統合）
		
	8月8日	国立鳴子病院火災（鳴子町）
		 記事：大崎タイムス

平成11年	2月15日	岩出山分署に2B型救急車配置（救急業務開始）
	3月5日	ソニー㈱中新田工場火災（中新田町）
	3月26日	涌谷消防署に高規格救急車配置
	12月 8日	鳴子消防署に高規格救急車配置
	12月20日	小牛田分署にCD-1型ポンプ車配置
平成12年	11月29日	鹿島台分署にCD-1型ポンプ車配置
	12月12日	東北自動車道多重衝突事故（三本木町伊賀地内　64台）  雪の東北道 64台衝突 宮城・三本木 負傷者40人以上 国道4号など大渋滞 記事：河北新報
平成13年	3月30日	古川消防署に救急１・２高規格救急車配置
	4月1日	消防救急通信指令システム運用開始   2001.3.1 臨時号 いち早く災害現場へ! 消防緊急通信指令システム 平成13年4月1日運用開始 ■県内消防本部初「FAX119番通報」 ■災害発生状況の問い合せ ■住民広報
	7月31日	鳴子消防署に15ｍ級はしご車配置  

	８月１日	小野田出張所に寄贈された2B型救急車配置（救急業務開始）
	９月１日	新宿区歌舞伎町雑居ビル火災【東京都】
	12月10日	中新田消防署に水槽付ポンプ車配置
平成14年	９月１日	田尻出張所に2B型救急車配置（救急業務開始）、三本木派出所を古川消防署三本木出張所に格上げし2B型救急車配置（救急業務開始）
	11月12日	三本木防災センターに併設し、三本木出張所開設
	11月14日	涌谷消防署に水槽付ポンプ車配置
平成15年	３月20日	小牛田分署に寄贈された高規格救急車配置
	４月１日	中新田町、小野田町、宮崎町3町が合併、加美町誕生。組合構成市町1市11町に大崎地域広域行政事務組合情報公開制度がスタート
	７月26日	宮城北部連続地震 （マグニチュード5.6、マグニチュード6.4、マグニチュード5.5）  宮城北部で震度6強 やまぬ揺れ 広がる被害 記事：河北新報
平成17年	３月31日	鳴子消防署に救助資機材を搭載した救助ポンプ車配置  
	４月１日	六の国環境衛生組合、大崎中央環境組合、大崎東部環境衛生事務組合と大崎地域広域行政事務組合が統合 加美斎場、玉造斎場、古川斎場、松山斎場、涌谷斎場の運営管理開始 組合単独の会計課設置  大崎広域に引き継ぎ 六の国、大崎中央、大崎東部 4月1日統合準備整う 大崎市民病院

平成18年	1月1日	小牛田町と南郷町が合併、美里町が誕生。組合構成市町1市10町に
	3月31日	古川市、松山町、三本木町、鹿島台町、岩出山町、鳴子町、田尻町の1市6町が合併、大崎市誕生。組合構成市町1市4町に
	4月1日	監査委員事務局開設
	11月7日	助役にかわり、常勤の副管理者を置く
平成19年	1月29日	古川消防署に寄贈された救急普及啓発車配置 
	1月31日	鹿島台分署に小型動力ポンプ付水槽車配置
	4月1日	収入役から会計管理者に改める
平成20年	1月25日	中新田消防署に救助資機材を搭載した救助ポンプ車配置
	4月1日	消防本部管理課、消防課、危機対策課、議会事務局、施設整備課開設
	5月31日	宮城県から大崎生涯学習センター無償譲渡
	6月14日	岩手宮城内陸地震（マグニチュード7.2） 宮城県広域消防相互応援出動（栗原市） 
	7月12日	㈱東北イノアック第二工場火災（美里町）
平成21年	1月27日	小野田出張所の救急車を高規格救急車へ更新
	2月17日	涌谷消防署に救助資機材を搭載した救助ポンプ車配置
平成22年	1月26日	三本木出張所及び田尻出張所の救急車を高規格救急車へ更新
	4月1日	知的障害児通園施設大崎広域ほなみ園が大崎市三本木へ移転  ▲大崎広域ほなみ園新園舎完成
	7月1日	涌谷消防署、小牛田分署、南郷派出所の3署所を統合し、遠田消防署開設

平成23年	3月11日	東日本大震災（マグニチュード9.0） 宮城県広域消防相互応援出動（南三陸町ほか）



組合庁舎の被災状況
（3階講堂の状況）

大崎管内での給水活動





大崎管内の被災状況
（道路の状況）

宮城県広域消防
相互応援活動
（南三陸町での活動状況）



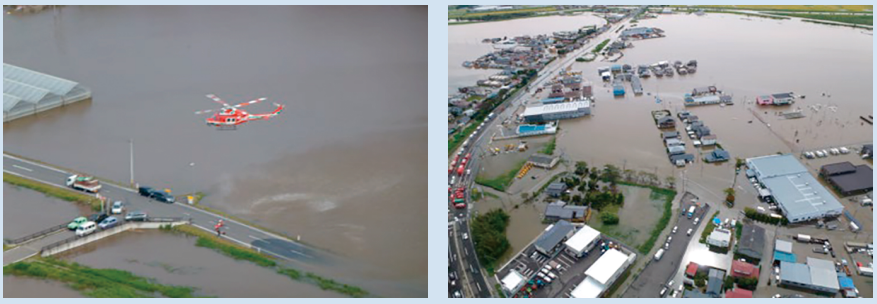
	4月26日	中新田消防署、色麻派出所を統合し、加美消防署開設
	10月１日	大崎広域東部汚泥再生処理センター供用開始



平成24年	4月１日	福祉型児童発達支援センター「大崎広域ほなみ園」へ移行
	4月27日	鹿島台分署、松山派出所を統合し、古川消防署志田分署開設
平成25年	2月14日	鳴子消防署岩出山分署新庁舎開設
	4月１日	消防救急デジタル無線システム及び高機能消防指令システム運用開始



平成26年	2月21日	小野田出張所、宮崎派出所を統合し、加美消防署西部分署開設 西部分署開設に伴い水槽付消防ポンプ車配置
	4月１日	大崎広域大日向クリーンパーク供用開始
	10月１日	衛生部局3事業所（西部・中央・東部）を統合し、施設管理課を新設
平成27年	2月17日	田尻出張所を古川消防署田尻分署に格上げし開設 田尻分署開設に伴い水槽付消防ポンプ車配置
	9月11日	関東・東北豪雨被害（大崎市古川地域西荒井）



	12月11日	「みちのくの宝島」を組合の商標として特許庁へ登録

	12月28日	大崎地域広域行政事務組合の組合章及び組合旗制定  組合章  組合旗
平成28年	2月26日	イメージキャラクター「大崎夢っ子」 を組合の商標として特許庁へ登録  平成30年11月22日 イメージキャラクター「らいすくん」 を組合の商標として特許庁へ登録 
	8月31日	台風10号被害　初めて緊急消防援助隊として出動【岩手県下閉伊郡岩泉町】  
平成29年	4月29日	大崎生涯学習センタープラネタリウムリニューアルオープン
平成30年	4月1日	大崎広域新ネットワークシステムの本格運用を開始 大崎広域ほなみ園医療的ケア児受け入れ開始
	9月6日	北海道胆振東部地震　緊急消防援助隊出動【北海道勇払郡厚真町】  

平成31年	３月19日	総務省から無償貸与された拠点機能形成車を古川消防署へ配備





	４月１日	大崎地域広域行政事務組合新庁舎供用開始 消防本部管理課を総務課、消防課を警防課、危機対策課を防災課に改編



令和元年	７月１日	大崎広域リサイクルセンター供用開始





	10月12日	東日本台風（台風19号）被害（大崎市鹿島台地域） 宮城県広域消防相互応援出動（丸森町）



（鹿島台地域）



（丸森町）

令和2年

1月14日　新型コロナウイルス感染症（国内1例目発生）

3月19日　古川消防署の救助工作車（Ⅲ型）を更新





4月1日　総務省から無償貸与された中型水陸両用車（カムロアークス）を鳴子消防署に配備





中型水陸両用車を配備

大崎広域消防本部　水害時救助などに活躍

北海道東北ブロック初

大崎広域消防本部に配備された「中型水陸両用車」

水害や土砂災害時の救助で活躍する「中型水陸両用車」1台が、大崎広域行政事務組合消防本部に配備された。緊急消防援助隊（緊援隊）の活動にも使われる総務省消防庁からの無償使用車両で、27日、同組合議会議員らに披露された。鳴子消防署に配置し、6月から運用を開始する。同車両の配備は、緊援隊の北海道東北ブロックで初めて、全国で3台目。

同車両は陸上では「ゴー」と変わらず、全長4・98メートル、全幅2・30メートル、全高2・94メートル、搭乗人員は陸上8人、水上5人で、最高速度を備える。同消防本部には活動範囲内に河川などに配備車両の災害や、緊援隊の登録車両などしていた一般の消防車両では進入できない場所に出動

記事：大崎タイムス

4月30日　大規模倉庫火災（プロロジスパーク岩沼１）
宮城県広域消防相互応援出動（岩沼市）





4月30日　大崎広域消防本部キャッチフレーズ「消防士は愛でできている」制定





大崎広域消防本部では、「安全・安心」の提供において、愛しむ（いつくしむ）心と愛でる（めでる）思いをつないで、災害から圏域住民を守っていくことを、キャッチフレーズの「愛」で表現しております。

※表記の「愛」につきましては、ひらがなの「しょうぼうし」にて「愛」を形作っております。

10月３日　緊急消防援助隊北海道東北ブロック合同訓練開催
（大崎市鳴子温泉地域鬼首地内　荒雄湖畔公園ほか）





令和3年　１月19日　東北自動車道多重衝突事故（大崎市古川地域宮沢地内　141台）





３月16日　古川消防署の35m級はしご車を更新







７月23日　東京2020オリンピック競技大会開幕
宮城県広域消防相互応援消防特別警戒（サッカー競技：利府町宮城スタジアム）





	８月２日	大崎地域広域行政事務組合設立50周年「管理者訓話」  
	９月20日	大崎地域広域行政事務組合設立50周年記念式典 「大崎市民会館大ホール」での式典（中止）実施方法を変更して情報発信する ※記念誌・記念映像をホームページやYouTubeなどに掲載し広く発信する ※2019.12から新型コロナウイルス感染症(COVID-19)が世界各地に感染拡大（パンデミック）。国内においてもデルタ株の爆発的な感染拡大が発生。全国的に感染防止対策を実施中。




最新鋭の35メートル級はしご車











